たかもり

発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田　高森町公民館
発行人
大洞利雄
☎35－9416
印刷所
龍共印刷株式会社

いざ！天竜川に挑む!!

カヌー大会を観戦して

9月2日（日）に第47回全日本天竜川カヌー競技大会が、市田港スタート～飯田市時又港ゴールの約13㎞のコースでおこなわれました。この大会は昭和47年を第1回目として、以降毎年開催されており、今年は第47回目となった歴史のある大会です。カヌー競技と言えば、一昨年のリオデジャネイロ五輪に於いて、羽根田卓也選手がアジア人として初めてのメダル（銅）を見事に獲得し、これまでカヌー競技を知らなかった方々もテレビで彼の鮮やかなパドル捌きに魅了されたことと思います。

カヌー競技は、2つの種類に大別されており、羽根田選手が銅メダルを獲得した競技は「スラローム」と呼ばれているものです。激流の中に設置されている多数のゲートを一つ一つ通過して行かなければならず、高度な技術とパワーを駆使して、全長250m～400mのコースをタイムにゲートペナルティーを加算して順位を争うものであり、鍛え抜かれたアスリート向けの競技になります。一方、天竜川でおこなわれている競技は、もう一つの種類である「ダウンリバー」などと呼ばれているもので、純粋にタイムのみで順位を争うものになります。全国に「ダウンリバー」のコースは多数ありますが、その距離は長くて5㎞とのことですので、この天竜川の13㎞というのは、如何に長いコースであるのかがご想像頂けるかと思います。

さて、今年の大会ですが、台風21号の接近で、当日の朝方までは強めの雨が降っており開催が危ぶまれましたが、8時頃にはその雨はすっかり上がり、薄曇りで微風といった絶好のコンディションの中で無事おこなわれました。本年度の大会には、県内を主として全国から79名（男性68名、女性11名）、17歳～79歳の幅広い年齢層から参加申し込みがありました。（当日の参加者は77名）。競技は、出走総数64艇を艇の種類（サイズ、型、材質など）ごとに分類し、12のカテゴリでおこなわれ、63艇が完走しました。走破タイムは、最速の艇は38分台でしたが、ほとんどの艇が60分以内でゴールをしています。ちなみに平均時速に換算してみると、約20㎞～13㎞になりますので、最速の艇はマラソンのトップランナー並みのスピードが出ているということになります。選手は全員が浮力のあるライフジャケットを着用し、頭部保護用のヘルメットを被り、万全の装備で競技に臨んでいました。市田港を各選手が1分間隔でスタートしていくわけですが、力強くパドルを漕ぎ出す姿はとても清々しく、観客から大きな声援が送られていました。

カヌー競技は、学校の授業にはなく、野球、相撲、ゴルフなどのようにテレビで放映されることはあまりないため、馴染みの薄い方が多いかと思いますが、実際に間近で観戦してみると意外と爽快感があって楽しめるスポーツです。又、運営関係者や選手の方々は、出走を控えてピリピリムードかと思いきや、話しかけにも快く応じて下さり、とても親近感を覚えました。高森町で毎年開催されているこの歴史あるカヌー大会が今後も益々発展していくことを祈念しております。

選手・関係者　みんなでニッコリ（＾＾）

論説

ハザードマップ

平成30年7月豪雨、続く9月の台風21号に伴い、当町では「避難準備・高齢者等避難開始」が発令され避難所が開設された。対象となったのはハザードマップのレッドゾーン（土砂災害特別警戒地域）に指定されている区域に居住する住民だった。

当町において、現行の制度のもと避難所が開設されたのは初めてのこととなり発令を決定した行政側も、発令を伝えられた住民も相当な緊張感に包まれたであろうことは想像に難くない。

ここで、にわかに注目、関心が持たれたのが前述のハザードマップだ。天候が回復し落着きを取り戻すとともに、役場には問い合わせが続出したという。

ハザードマップは、いわば被害予測地図であり、自然災害による被害を予測しその被害範囲を地図化したもの。加えて、避難経路、避難場所などの情報を地図上に示すのが一般的である。

2000年の北海道有珠山噴火の際ハザードマップに従って住民、観光客が避難した結果、人的被害が免れたことで世間の注目が高まった。さらに、2011年の東日本大震災の経験を踏まえ全国的に見直しがおこなわれている。

当町では、2010（平成10）年3月に、「洪水・土砂災害ハザードマップ2010保存版」が発行され全世帯に配布された。さらに、レッドゾーン指定地域内の住民に対し説明会が開催されている。

ところで、現行のハザードマップは果たして十分なのだろうか。レッドゾーンならびにイエローゾーンの色分けは適切なのだろうか。改めて見直してみた。

まず、土砂災害危険区域には急傾斜地の崩壊と土石流の2種がある。急傾斜地は段丘崖や山麓に多く設定されている。土石流区域は設定されているがレッドゾーンはあまりにも狭い範囲に限られている。

浸水想定区域については山吹・吉田の天竜川沿いの大部分と、大島川下流部に浸水ランク別に色塗りされているが、同じ地形条件にも拘らず下市田河原は全く色が塗られていない。地形的にみて天竜川及び支流の氾濫原はすべて区域指定すべきではないだろうか。

聞くところによれば、現在県がゾーンの見直しをかけており平成31年に公表予定という。町は県の公表を受けハザードマップの改訂を行うとしている。

ハザードマップは洪水・土砂災害だけでない。地震災害、火山防災、津波浸水・高潮ハザードマップがそれだ。東南海地震、伊那谷断層による直下型地震の恐れがある当地域において、地震災害ハザードマップ作成は一刻の猶予も無い。

三面鏡

▼私事で恐縮だが、末娘の結婚に際して両家の顔合わせのために久しぶりに家族が勢揃いする機会があった。足腰は弱ってきているが元気なうちに祖父母との写真を撮りたいと娘から提案があり、町内の写真館に撮影に来て頂き、大騒ぎのなか撮影を終えた。宴会場へと席を移し、幼い孫たちの一挙手一投足に笑いや歓声が起きるなか盛会のもとにお開きとなった▼家族にとって嬉しい出来事が生きる張り合いとなって日々の生活に色を添えてくれる。1週間前にやったぎっくり腰の痛みを引きずりながらも張り切って動ける体に感謝しつつ、我が身のためにも家族のためにも、自分を大事にしていかなくてはと思った▼頻繁に起こる自然災害や事故、事件など日常の幸せが突然失われるできごとが報道される。まさか我が身に降りかかることはないだろうと思い込み、いや、この頃はないで欲しいと願って生活している。▼世の中の動きは益々スピード感を増し、若者の思考や会話から取り残され、意識改革の必要を迫られている▼しかし堅固な建築にしっかりした基礎が必要なように、脈々と続いてきている歴史には必ず人が人と繋がり紡いできた頑丈な網が土台となっている▼人を愛し、思いやれる人々こそがすべての宝であると思う。

～文化財で過ごした子どもたち～「下市田学校にお泊りしようよ！」

8月1日・2日に、下市田学校応援隊が主催する「下市田学校にお泊りしようよ！」が行われました。会場は町の文化財に指定されており、明治時代に建てられた小学校である旧下市田学校校舎です。高森南小・北小学校の児童が、地域の歴史や文化財を体験しながら楽しく学びました。

入校式の後、下市田学校の説明を聞きました。教育を大切に思う地域の熱意によって、校舎が建てられたことを学びました。昔の学校生活について地域の方から話を聞きました。

昼食後は地域探検です。南小学校の近くにある古御屋（ふるごや）では、松岡氏のお姫様が化粧をしたと伝わる井戸や堀の跡を見学しました。狐が住んでいたと思われる穴も見つけました。

夕食は、自分たちでカレーとフライドポテトを作ります。野菜を切ったり、ジャガイモを揚げたり、慣れない手つきながらも、みんなで協力して料理をすることができました。

夜には「たんころりん」の皆さんが、怖い絵本の読み聞かせをしてくれました。ろうそくの光の中で聞く話が緊張感を高めていきます。その後、班ごとに度胸試しに出発です。班のみんなで団結してゴールまでたどり着くことができました。動物を探すナイトズーもしました。

就寝は蚊帳（かや）の中です。子どもたちは初めて見る蚊帳に大喜び。しっかり休んで1日の疲れを取りました。

2日目は「中国を知ろう」を行いました。中国大使館の職員から中国のことを教えてもらい、子どもたちは熱心に耳を傾けています。中国の子どもたちに人気の「ジェンズ」というはね蹴りを体験しました。始めはうまく蹴れませんでしたが、だんだんと上達していきます。

昼食は流しそうめんです。そうめんが流れてくるのを今か今かと待ち構えます。ミニトマトやさくらんぼが流れてきて、子どもたちから歓声が上がります。

2日間お世話になった校舎の掃除をした後は閉校式です。お泊り証明書を受け取った子どもたちの顔はたくましい表情になっていました。下市田学校応援隊の支えがあり、下市田学校という文化財で過ごすことを通じて、子どもたちが成長したことを感じました。

お泊りの締めは流しそうめん

下市田学校の顔（木曽亀の玄関の説明を聞く）

～暑さに負けない区民の熱気～大島山区 納涼祭

8月5日（日）に大島山区夏祭りにおいて、マレットゴルフ大会と納涼祭が行われました。

午前中は田沢ミニマレットゴルフ場にて、組合対抗による試合が行われ、優勝は6番組という結果でした。

午後4時から納涼祭が開催されました。毎年公会堂前の広場を会場にしていましたが、今年は連日の猛暑に加え、西日が当たって夕方でも気温が下がらないため、熱中症の危険を考慮し急遽、区民会館に会場を変更することになりました。

乾杯のあと、太鼓の演奏やカラオケ大会、ビンゴゲームを楽しみました。壮年団によるフランクフルトや焼き鳥、焼きそばも人気で、他にも地域農政の方が用意した豚汁や、区長さん宅の釜で焼いてくれたピザが振る舞われ、夏祭りを大いに盛り上げてくれました。

夏祭りの中でも、特に楽しみなのがビンゴゲームの商品で、今年は、ドライブレコーダーやソーラー携帯充電器、50種類のゲームセットや冷感シーツ、冷感だき枕に、金塊（中身はティッシュ）、一万円柄のタオルなどバラエティーに富んだ賞品が並び、「ビンゴー！」という声に、羨望の眼差しを浴びていました。

バラエティーに富んだ賞品

～元気に過ごした2日間でした～育成会・ふれあいキャンプ

「魚つかみが面白かった」「また来年も参加したい」「薪に火がつかなかった。みんなで協力してご飯が作れた」と子供たちが感想を話してくれました。

今年も育成会「ふれあいキャンプ」が7月29日30日に研修施設森の家（山の寺下）で、高森町22名、小谷村17名の児童が参加しました。

開会式で、高森・宮嶋育成会長、小谷・相澤育成会長より「夏休みの良い思い出、友だちの輪を広げてほしい」帯刀教育長は「自然の中で生きていく力を身に付けてほしい」と挨拶がありました。

育成会の方針として「できる限り大人は手を出さずに子供に任せる」とのことでしたので、かまどを作って火を焚いて、野菜を切ることなど、班長さんが指示を出していました。「煙が目に入って痛い！」「誰か手を貸してくれ。水を入れて！」などご飯の準備も賑やかでした。解らない、できないなりに一生懸命でした。

夜のキャンプファイヤーでは、歌やフォークダンスで仲良くなり、翌日の魚つかみ体験は「水が冷たい。魚がヌルヌルして捕れん」時間はかかりましたが、1人1匹のニジマスを獲りました。食べる魚は自分で内臓を取り、串に刺して塩焼きにしていました。「怖い。できない」と言っていましたが、教えてもらいながら〝命を頂く〟ことを体験していました。

閉会式では「2日間の経験や人との出会いはこれからの力になる。家族の人にキャンプの事を話して下さい」小谷村相澤育成会長は「高森との交流も7年。心からのおもてなしに感謝します。今度は冬のスキー教室、栂池にてお待ちしています」と閉められました。

マッチを使って火をつけることやナイフで竹を削ることは、現代生活からなくなりつつあります。この体験を多くの子供たちにも経験してもらいたいです。

魚がヌルヌル。なかなか捕れん。

塩焼きにするか！

平和へのかけはし使節団
報告会 & 平和学習会

平成元年から続いている広島平和バス派遣事業。今年は30回目となる記念すべき年であった。

今回の報告会は、平和バス派遣の30回目記念ということで、昨年度から高森町に関わって下さっている広島の「被爆証言の会」の語り部、河野キヨ美さんをお招きした。団員として参加し広島へお伺いしなければ聞けないお話しを、この高森の地においても聞くことができる貴重な体験であった。

被爆者である語り部の河野キヨ美さんからのお話しは、戦争の恐ろしさと平和の大切さを実感するものであった。河野さんは教職を退いたあと、自らの戦争体験を絵本にして発表している。今回のご講演の中でも、いくつか自ら描いた作品を見せて頂いた。原爆による高熱線のため眼球が飛び出し、腹部が破裂し内臓が飛び散って死体、学童の死体が円筒状に積まれた様子、橋の上に並べられた死体…これらは写真で見るよりも恐ろしさを感じた。それは、描いた河野さんの気持ちが入っているからだろう。

続いてシンガーソングライターの清水まなぶさんをお招きし、河野さんとの対談を通じて、私たちの世代が戦争や平和についてどう考え、何ができるのかを一緒に考えた。清水さんはシンガーソングライターという側面のほかに、戦争体験者に聞き取りを行い、それを書籍や歌にして発表するという活動も行っている。清水さんが今回の対談や発表している作品の中で訴えるのは、「平和」というものを難しく考えるのではなく、過去の事実から得た教訓を、「人の悪口を言わない・他人を責めない」「考え方の違いを認める」「他人の存在を確かめるために、こちらから挨拶をする」というような、日常生活の何気ない言動から変えていくことが平和につながっている、というものだ。

私たちは戦争を体験していない世代である。今回のように河野さんから戦争や原爆の体験を聞いたとしても、その恐怖は河野さんが体験した百分の一にも満たないだろう。だが、私たちの世代ができることは、こういう事実から目をそむけず、そして無関心になってはいけないことだと思う。そして、大きなことではなく、小さな平和を足元から築いていくことである。ほんの少しではあるが、明日から平和への一歩が踏み出せそうな気持になった、そんな報告会＆学習会であった。

「語り部」河野キヨ美さん

河野さんと清水まなぶさん

特集「高森の山」②
～本高森山を見よう～

町名の由来である本高森山は、実際には、町内どこからでも見られるというわけではない。

当編集部では、自動車で走行可能な道路を走り、頂上部が目視できる場所を調査した。

調査の結果を本高森山可視範囲として地図上に示した（別図）。

市田地区と山吹地区では見え方に大きく違いがあることがわかった。

上市田、牛牧、大島山からは全く見えない。役場、中学校、南北小学校からも残念ながら見えない。天竜川沿いは下市田親水公園付近から万年橋まで広範囲で見ることができる。山吹の田沢川以南では段丘上の中央線沿線、フルーツライン沿線は頂上部が良く見える。田沢川以北では上平段丘上、特に新田原は遮る物なく見渡せる。

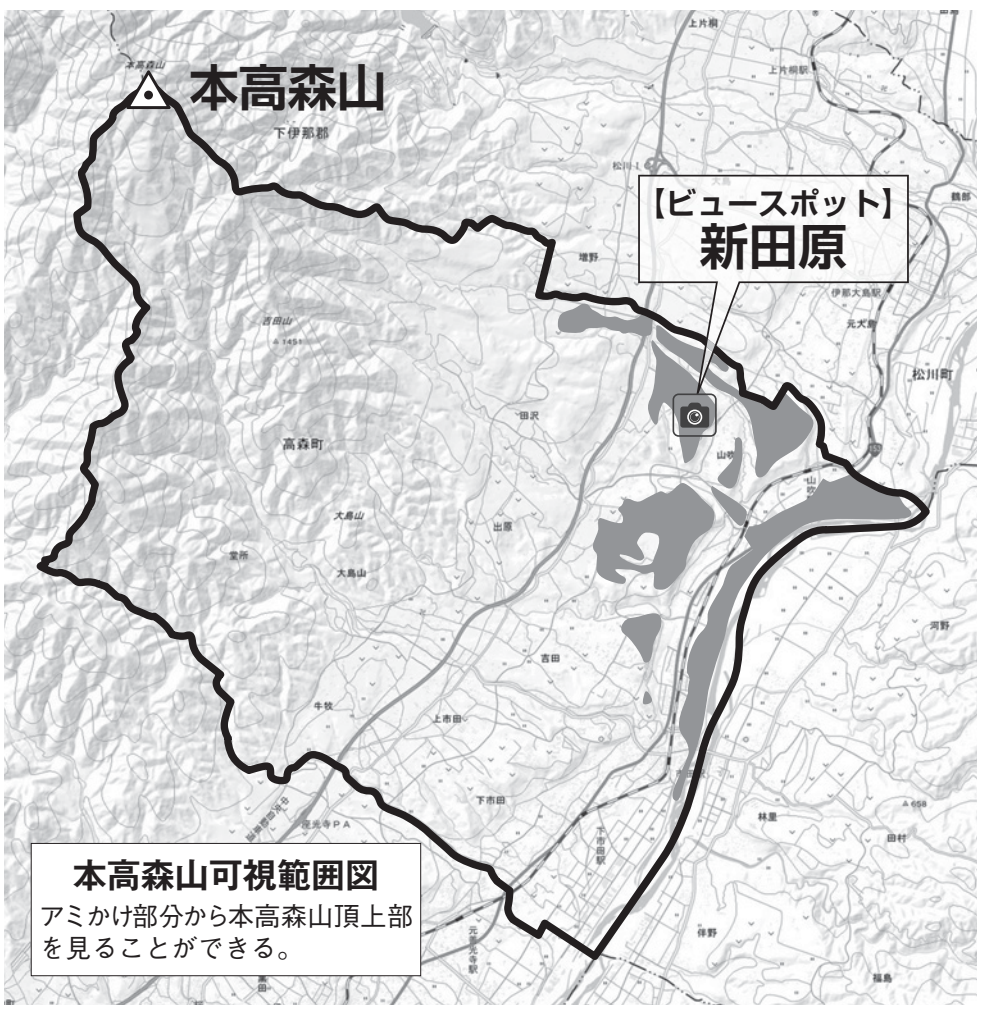
あなたの暮らす地区、家から本高森山は見えますか。

天竜川の対岸から 喬木村 アルプスの見える丘

天竜川の対岸から高森町を望むビュースポットは何カ所もあるが、山を識別しやすいのはここ。阿島の街のむこうに高森町が視野いっぱいに広がる。手前から吉田山、前高森山、本高森山と順に重なって見える。背後は安平路山から奥念丈岳、南越百山と続く木曽山脈主稜線だ。

町内随一の展望 山吹 新田原

左から吉田山、前高森山、本高森山と続く尾根が一幅の屏風のようだ。見えている斜面は胡麻目川、田沢川、大沢川の集水域。新田原の一本桜のあたりがおすすめ。お花見がてら、山の位置関係を確かめるとよい。



本高森山可視範囲図
アミかけ部分から本高森山頂上部を見ることができる。

熱戦！第30回島岡旗野球大会

第30回島岡吉郎旗学童野球大会が8月11日に、中学生野球大会が18・19日に開催されました。

高森町からは南信州高森ベースボールクラブが中学校グラウンドブロックに出場し、初戦を山本少年野球教室に13―3で3回コールド勝ち、続く2回戦の準決勝も泰阜少年野球クラブに14―2で勝利、決勝では松尾少年野球教室と対戦し、5―1で勝利し、見事優勝しました。

中学生大会は、県内外から12チームが出場し、高森中野球部は予選ブロック第一試合を飯田東と対戦し4―0で勝利しましたが、第二試合で中津第一・苗木野球クラブに3―2で惜しくも敗れました。勝利した中津第一・苗木野球クラブは2日目の決勝トーナメントでも勝ち進み優勝しました。高森中にとっては悔しい結果となりましたが、強いチームと対戦できたことは良い経験となり、得るものがあったのではないでしょうか。

今年も多くの選手と応援に来られた方で盛り上がり、熱気あふれる大会でした。

【試合結果】

◆学童大会

◇町民グラウンドブロック

優勝　鼎ブルーキングス

◇中学校グラウンドブロック

優勝　南信州高森ベースボールクラブ

◆中学生大会

優勝　中津第一・苗木野球クラブ

学童大会　中学校G優勝　南信州高森ベースボールクラブ

きらっ人 高森

駒とともに30余年

佐藤　歩さん（下市田一区）

7月に行われた「第72回アマチュア将棋名人戦　長野県大会」で優勝され、9月8日から東京で行われた全国大会に出場されました。

生まれ育った埼玉県から13年前に高森に引っ越してこられました。将棋は小学2年生の頃、祖父に教えてもらい、将棋道場へ通って腕を上げていきました。アマチュア将棋は初段から7段までの階級があり、小学4年で4段、中学2年ではプロを目指す奨励会に入りました。中学・高校時代は将棋漬けの毎日で1年間に70局、1ヶ月に6局の対局をこなし、規定の成績を取らないと昇級できなかったのでプレッシャーが大きかったそうです。その後21歳で初段にまで上がりましたが、厳しい奨励会には年齢制限もあり22歳頃に辞めました。

衝撃的なデビューで今や将棋界を賑わす藤井聡太七段については、今までの常識が通じないびっくりするような手を打ってくるので、自分の読みが全く信用できなくなると話されます。コンピューター将棋の影響は大きく、若い人にこうした感覚が伝播しているそうです。AI同士が1日7万回対戦して最適な手を探していくので、平安時代から引き継がれてきた戦法が一日で崩されていく。師匠から教えてもらった、上達のための格言や美しいと解釈されてきた公式のような手は今では全く通用しないとのことです。

好きなプロ棋士は、谷川浩司さんの駒を前に出していく攻め将棋だそうです。

良い思い出ではないけれど、22歳頃アマチュア横浜名人戦で優勝したとき、羽生善治さんとの対局の機会に恵まれました。オーラに吸い込まれるような強さを感じ、人間的に怖かった。怖いと攻めるので返し技でやられた。持ち時間は20分くらいだったが何とか20分を遣わせてもらえた。奨励会を辞める前の忘れられない対局となったそうです。

最近最愛のお父様を亡くされて、全国大会出場の報告をしたかったが、お父様に恥じないよう頑張ってきたいと抱負をお話しされました。

佐藤さんは個人で将棋教室も開かれていますので興味ある方は是非お出かけください。

○場所　サントピア飯田
○日時　月2回（日曜日）
　午前9時～
　午後3時
○料金　一回
　大人　1000円
　小人　700円
（2時以降は300円引き）
年齢は問いません。

まちのとしょかん

移動図書館きんもくせい運行
あったかてらすへこんにちは！

丸山公園横に開設された、子育て支援施設「あったかてらす」への移動図書館の定期運行が開始されました。二週間に一度、水曜日の11時から30分間です。ご家族でお立ち寄りください。

町内全域に図書館サービスが行き渡るよう、移動図書館きんもくせいが巡回しています。この8月より運行日程が一部変更となり、「あったかてらす」へも伺っています。催し物に参加した親子連れや、ご近所に住む方々が利用されます。施設の利用にあわせてお出かけください。

なお巡回変更の中で、廃止となったステーションは以下の4か所です。

・幸香ハイツ前
・出砂原中公園
・出砂原地区館
・亀じい駐車場

宅配も随時受け付けます

巡回の中で宅配を行っています。最寄りのステーションの時間帯でお届けします。ご希望の方は図書館へお問い合わせください。

（電話35－9434）

入口特集コーナー
まちとしょシアター

館内の資料を取り上げてご紹介しています。11月までは当館所蔵のDVDのほか、映画化された小説などの原作本を並べました。

海外の映画監督に影響を与えた黒沢明監督の作品「七人の侍」「隠し砦の三悪人」はご覧になりましたか？また、数々の受賞作で話題の是枝裕和監督作品や、樹木希林さん出演の作品もあります。日本人なら要チェック映画ですね。

この秋の話題映画の原作本もあります。

資料は貸出中ということもありますのでカウンターでお尋ねください。

蔵書点検のための休館のお知らせ

10月22日（月）～27日（土）

蔵書点検と整理作業のための長期休館を予定しています。

この間は館内への入館および、貸出・返却のほか、電話での問い合わせ等も対応できません。移動図書館の運行もお休みとなります。

ご理解とご協力をお願いいたします。